

岸田政権の危険な暴走に怒り

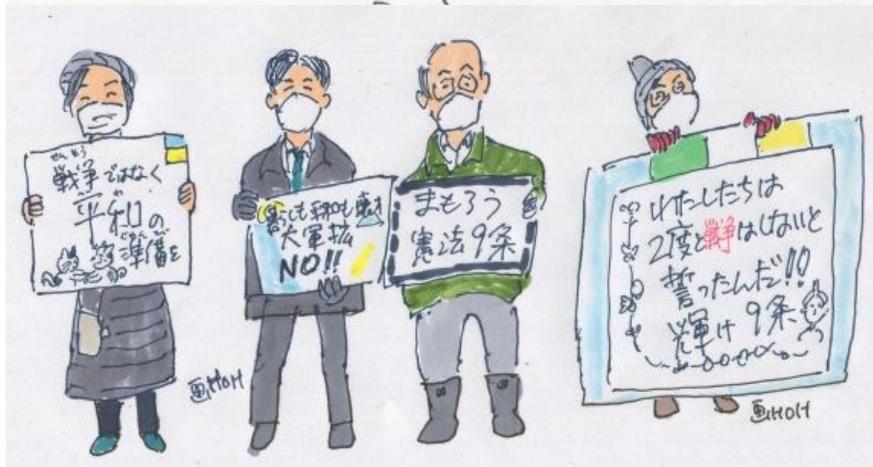


敵基地攻撃能力保有と大軍拡を宣言した「安全保障3文書」の閣議決定、10兆円を超える軍事費を計上した来年度予算案など岸田政権による憲法を踏みつけた暴走に怒りが全国に広がっています。

こうした中、上越市内では9日、「9条の会」や市民連合・上越などが、かに池交差点で新年に入って最初のスタンディングを行いました。

連休中にもかかわらず、30人ほどの人たちが、「戦争N

大軍拡反対、平和外交重視を！



「軍事費2倍加を許すな」「戦争ではなく平和の準備を」「わたしたちは2度と戦争はしないと誓ったんだ！輝け憲法9条」などのプラカードをもってアピールしました。

この行動には私も参加しましたが、参加者からは、「新しい戦争前夜という言葉も出てきている。岸田内閣はリベラルな政治をするかと思ったがとんでもない暴走を始めた。なんとしてもこの動きを止めたい」「今年には戦争か平和が問われる極めて重要な年だ。みんなで頑張りたいたい」などの声が出ていました。

私も市政だけでなく、こうした問題でも全力で頑張ります。

「社会福祉協議会との連携重視を」の声、多く

厚生常任委員会が12月23日に開催され、上越市の第3次地域福祉計画、第4次環境基本計画、第2次地球温暖化対策実行計画の策定についての所管事務調査が行われました。

このうち地域福祉計画については、委員から、「ヤングケアラーの問題を現状と課題だけでなく、基本施策にも入れた方がいいのではないか」「取組の方向性・概要の書き方は抽象的だ」「子ども自身が権利を学ぶ取組の重視とあるが賛成だ」「地域包括ケアシステムのところで、重層的な支援体制の整備とあるが、表現が難しい」などといった声が出ていました。

注目したのは、計画推進にあたっての社会福祉協議会との連携です。平良木、牧田、大島の3委員がこのことで、「社会福祉協議会への補助金を減らし続けてきたが、連携していくなら、補助金を増やすべきだ」「社会福祉協議会もこの計画でいいとなっているのか」などと発



言しました。

これに対して小林福祉部長は、「地域福祉の分野では、それぞれの課がバラバラで対応してきたところもある。社会福祉協議会との連携については金銭的な部分を含めて検討したい」「社会福祉協議会からは活動計画など了解してもらっている」と答えました。今後の動きを注視していきたいと思います。

環境基本計画については、「『普及、啓発に努める』が多用されている。具体的な踏み込みが必要だ」などの意見が出ました。



【ヒメオドリコソウ】
（再掲）シソ科の越年草。漢字で「姫踊子草」と書きます。明治年間にヨーロッパから入ってきた植物で、花の形は笠をかぶって踊るかわいい子のイメージです。花期は3月～5月ですが、今月8日には、写真のようにたくさんの花を咲かせていました。花言葉は「愛嬌」「陽気」「春の幸せ」などです。吉川区代石にて8日撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2093 2023.1.15
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七四〇回

パタカラ

世の中には、知らないことがいっぱいあるものですね。先週の金曜日、数か月ぶりに柏崎市にある妻の実家へ行った時のことです。昨年三月に亡くなった義母の部屋の冷蔵庫に貼り付けてある白いボードに書かれた文字が目にとまりました。

書かれた文字は、横書きで「ねる時すってはいてゆっくろパタカラ」とありました。一字一字、しっかりとした文字で書いてあります。

すぐに「これは何？」と私が訊(き)くと、「お袋用の言葉の訓練」といった意味合いの言葉を義兄または妻が返してくれました。どちらだったかは覚えていないのです。文字そのものについては、「義母が書いたもの」と思い込み、その時は深く考えませんでした。

義兄と妻は私よりも詳しく知っているはずですので、もっと深く訊こうと思えば、訊くことはできたのですが、その時の話題の中心はどちらかというところ、義母のことよりも大雪のことだったので。

妻の実家では、昨年一二月一九日から翌二〇日にかけて降った七〇センチほどの重い雪によって、大きな百日紅をはじめ、ツバキ、桜などが何本も裂けたり、折れたりしていました。裏山の杉や雑木も同じです。そして車庫の屋根には杉の木の子がまだ残っていました。義兄によると、屋根には穴が開いてしまい、これまでにかけた庭木などの伐採費用も入れると、三桁のお金がかかりそうだとのことでした。

ボードに書かれた言葉、文字について私が再び話に出したのは、妻の実家から車で五分ほどのところに住む義姉のアパートに行ってきたからです。

私のスマートフォンで撮影したボードの文字を義姉に見せ、「これ、知ってる？」と言うと、「これは私が書いたの」と言われ、びっくりしました。

義姉によると、義母は当時、よく眠れないと訴えていて、その状態を少しでも改善しようとして、「ねる時すってはいてゆっくろ」と書いて義母にそれをやってもらおうと思っただけです。義母は亡くなる前、介護施設や病院などに二年以上入っていました。義母がボードに書いたのは、短くて三年、長ければ四年くらい前になることもわかりました。

そして私が初めて出合った言葉、「パタカラ」の意味、これはインターネットで調べました。舌や口周りの筋肉が硬くなり、むせる、口が乾く、飲み込みが悪い、こういったことがたびたび起こるようになったら、毎日、数分間、「パパパ、タタタ、カカカ、ラララ」とやるというらしいのです。実際は、よく知っている歌に合わせてやっている人が多いようです。「パタカラ」を発音したり、歌ったりすることを「パタカラ体操」ともいうようです。

ボードの言葉を見て義母が実際にはどうしていたか、私は見ていません。義姉も見ていなかったようです。ただ、義母がこれらの言葉を大事にしていたことはハッキリしています。

じつは、ボードの文字はよく見ると二重になっていたのです。これは義姉に言われてわかったのですが、ボード用のペンで書いても、黒板消しで簡単に消せるので、義母は黒のマシックで義姉が書いた文字の上をなぞっていたのです。

これなら消えません。私は、義母が、自分でなぞった文字を見ながら、ベッドの上で、大きく息を吸い、はきだしている姿をイメージすることができました。もちろん、「パパパ、タタタタ……」もやっていたはず。

初めて出合ったパタカラ。最近、滑舌が悪くなってきた私にとっては救いの神かも知れません。よし、やってみよう。

第15次組合消防整備計画を変更

上越地域消防事務組合議会全員協議会が12月26日開催されました。久しぶりに傍聴してきました。

注目したのは、第15次組合消防整備計画の変更についてです。

ひとつは新型コロナウイルス感染症対策の強化を盛り込んだことです。トイレ、洗面所、シャワーなどの設備が大幅に改善される内容となっています。

もう一つは、消防署所の整備です。これまでの計画では頸北消防署の最適

位置への移転の検討が入っていましたが、改訂版では、頸北消防署の固有名詞は消えました。これは他の署所も整備が必要になっていることから、「消防力の適正配置に伴う消防署所の移転整備について一定の方向性を示す」という表現になったということです。この点は会議後、池田消防長に確認しました。しっかり整備を進めていただきたいと思います。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月26日(月)	1月11日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.057	0.047
頸北消防署	0.050	0.040
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.047	0.037
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.053

8分野、131項目で新年度予算要求

日本共産党上越地区委員会(五十嵐健彦委員長)と日本共産党議員団(団長は私)は12月26日、来年度予算編成にあたっての要望書の中川市長に提出し、若干の懇談を行いました。

要望は、①市民が主人公の市政運営、②新型コロナから市民の命と暮らし、医療を守る、③原発再稼働を許さず、地球温暖化を要因とする災害をはじめ、あらゆる災害から市民を守る安全安心なまちづくり、④市民負担軽減と、暮らしを支える地域経済活性化、

⑤地域の基幹産業としての農業振興、⑥末永く暮らせる中山間地づくり、⑦子どもからお年寄りまでだれをも大切にする福祉のまちづくり、⑧性の多様性を尊重し、だれもが住みやすいまちづくりの8分野、131項目です。

懇談では、私から、副市長4人制について、「現行の2人でいいと思っているが、4人どうしても必要だということが理論的にもわかれば賛成する。ただ、この議論は来年3月議会までに決着させてほしい」とのべました。